

地歴公民(政治・経済) 同志社大学 全学部日程 [文系] (2/5実施)

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

客観式、記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問3、解答数61(客観式33、記述式28)で昨年度より解答数が3問減少している。教科書に準拠した基本的な問題が多いが、一部で詳細な知識を必要とする問題も出題されている。難易度は、昨年度と概ね変わらない。

出題の特徴や昨年との変更点

I 政治分野、II 経済分野、III 経済分野という構成になっており、やや経済分野に重きを置いた出題になっている。例年通り、日本国憲法の条文の文言を問う問題は出題されている。また戦後日本経済の動向を問う問題も、昨年に引き続き出題されている。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	客観式 記述式	私法の三大原則、 臓器移植法、消費者問題	【設問1】・【設問2】契約自由の原則や所有権絶対の原則、また過失責任の原則とその修正、また【設問6】契約の成立要件など、消費生活と私法のあり方を問う問題を中心に 出題された。【設問5】2009年の改正臓器移植法の内容を問う問題が 出題されているが、判断に迷う。【設問9】(キ)消費者団体訴訟と(ク)被害回復は、 難易度が高い。	やや難
II	客観式 記述式	日本の中小企業の 現状と課題	日本の中小企業問題に関して、概ね教科書に準拠した基本事項が問われている。【設問8】2. 有限会社の最低資本金に関する正誤を問う問題は消去法で対処できる。【設問9】インキュベーション、【設問10】創業(起業)支援に関する問題は、 やや難易度が高い。	標準
III	客観式 記述式	戦後復興期から高度経済成長期における日本経済	戦後復興期から高度経済成長期における日本経済の動向について、概ね基本的な知識を問う問題であった。ただ【設問2】日本の労働組合運動の歴史を問う問題はあまり受験生になじみのない問題であっただろう。【設問3】「経済安定九原則」の内容を問う問題は、同原則がインフレ抑制を目的としていたことを知っていれば判断できる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書に記載されていないような詳細な知識を要する問題も出題もされているが、多くの問題は教科書レベルの基礎的知識や理解力があれば解けるものである。したがって、まずは教科書を熟読して各分野を徹底的に学習し、その内容を自分のものにすることが必要となる。その際に用語集や資料集を併用して知識に深みと広がりをもたせるようにしたい。また近年の同志社大学に多く出題されている日本国憲法の文言に関しても、憲法の条文を熟読したうえで、理解を深めておこう。